

# プログラム日記

1日目 8月19日(金) 天気: 晴れ

プログラム	活動内容および参加者の状況
<p>集合・受付 「開塾式」 進行: 佐々木 治 「アイスブレイク」 「周辺散策」</p>	<p>開塾式では、主催者を代表して実行委員長の漆原常務理事、榎崎実施本部長があいさつをしました。その後、職員、ボランティアスタッフの紹介、アイスブレイク、全体集合写真の撮影などを行いました。開塾式後は、施設内の散策を行いました。</p> 
<p>プログラム① 「野活の水」 講師: 佐々木 治</p>	<p>「野活の水」では、「比べて違いをみつけよう」をキーワードに、3種類の水溶液から当施設の水道水を選択するという、グループ学習を行いました。ワークブックを使い、違いを見つけるための視点を確認する学習を行ったため、学年に関係なくそれぞれが意見を出し合うことができ、班のメンバーで考察を行うことができました。</p> 
<p>プログラム② 「野活の水生生物」 講師: 佐々木 治</p>	<p>「野活の水生生物」では、水生生物の採集・観察方法を学びました。子どもたちは、普段はなかなか見かけることのない「アカハライモリ」や「ミズカマキリ」の採集を行い、班ごとに容器に集め、生き物の体のつくりを観察しました。</p> 
<p>夕食</p>	
<p>プログラム③ 「仲間作りレク」 講師: くわがたのスタッフ  講師: 佐藤 彰吾</p>	<p>「仲間作りレク」では、最初に施設ボランティア「くわがた」のスタッフ、キット・りお・ひろぼんが、命令ゲームやまねっこ体操、バースデーリング、進化じゃんけん、猛獣狩りなどのレクリエーションを行い、子どもたちの交流を促しました。</p> <p>次に、施設職員が仲間づくりじゃんけんゲームをいくつか行いました。その後、projectWETのアクティビティより、直径50cmの地球柄のビーチバレーボールを使った「青い惑星」やペットボトル30本を使った「大海の一滴」を行いました。最後に、水を与えてくれた神への感謝を込めた喜びの踊りをみんなで踊ったり、協力して水道橋を作るゲームを行ったりしました。</p> 
<p>入浴・就寝</p>	

プログラム	活動内容および参加者の状況
<p>朝の集い</p> <p>プログラム④ 「大暮養魚場の体験」 講師 ヒラト産業株式会社 職員</p>	<p>大暮養魚場では、「ヤマメ」と「イワナ」の違いや養殖に必要な条件、養殖業で大変なことなどについて説明をしていただきました。また、2023年に広島での開催が予定されているG7サミットで、各国から集まった来賓に振舞われる予定の広島レモンサーモンの幼魚も特別に見せていただきました。</p> <p>魚のつかみ取り体験では、放流され岩場に隠れた「ヤマメ」を見つけ出し、追い込み、捕まえる体験をしました。魚が苦手な子もいましたが、友達の助けも借りながら、果敢に挑戦していました。</p> <p>その後、班ごとに囲炉裏を囲み、マッチ・松葉・炭を使って、火おこしをしました。なかなか火が付かず、試行錯誤ののち、何とか火をおこし、自分たちで捕まえた「ヤマメ」を焼いて食べました。</p>    
<p>プログラム⑤ 「温井ダム見学」 講師 中国地方整備局 温井ダム管理事務所 所長</p>	<p>温井ダムでは、温井ダム所長から、ダムの機能や役割などについて説明をしていただきました。次に、管理事務所内の水の資料室で、展示物やダム建設時のジオラマを見学しました。その後、管理事務所入り口からエレベーターで150mほど垂直に移動し、ダムの地下道を通り放流広場まで散策しました。子どもたちは、見上げた巨大なダムの壁に感声をあげていました。</p>   
<p>プログラム⑥ 「キャンドルサービス」</p> <p>■エールマスター 武田 一郎</p> <p>■営火長兼サブエール マスター 檜崎 正生</p> <p>■サブエールマスター 佐々木 治 佐藤 彰吾</p> <p>入浴・就寝</p>	<p>雨天でキャンプファイアができなかったため、キャンプファイアの三部構成と同様に体育館でキャンドルサービスを行いました。第一部では迎え火でキャンドルサービスに関する説明を行い、営火長の合図でキャンドルサービスの第二部を開始しました。エールマスターが様々な歌やレクリエーションを組み合わせることで、大いに盛り上がりました。第三部では、心を静める送り火として、子どもたち一人一人がキャンドルを持って班ごとに点火をし、歌を歌いながら退場しました。</p>   

プログラム	活動内容および参加者の状況
<p>朝のつどい</p> <p><b>プログラム⑦</b>  <b>「簡易浄水器の制作」</b>                      講師：石井 淳之</p>	<p>「簡易浄水器の制作」では、ペットボトルを加工して簡易ろ過装置を作りました。子どもたちは、茶色く濁った山水が、ろ過装置により、透明な水となって出てくる様子に驚いていました。</p> 
<p><b>プログラム⑧</b>  <b>「野活チャレンジピック(水)」</b>                      講師：佐々木 治                      石井 淳之                      武田 一郎                      佐藤 彰吾                      平山 雅玖</p>	<p>「野活チャレンジピック(水)」は、projectWE Tアクティビティの「水リンピック」と令和2年度に野外活動センターが試作した冒険教育プログラム「野活チャレンジピック」を組み合わせたプログラムです。子どもたちは、班の仲間と地図を見ながらポイントをめぐり、課題にチャレンジしました。</p> 
<p><b>「おわりのつどい・閉塾式」</b></p> <p>進行：佐々木 治</p>	<p>「おわりのつどい」では、2泊3日を振り返るムービーを觀賞し、子どもたち一人一人が思い出に残ったことについて発表を行いました。その後、子どもたちは修了証を受け取り、終了となりました。</p> 